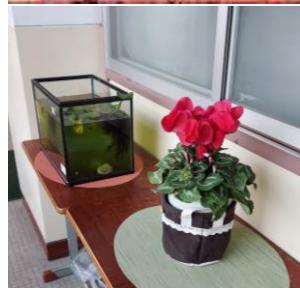




「密」よりは「金」・・・



日本漢字能力検定協会が12月13日に、今年の世相を漢字一字で表現する年末の風物詩「今年の漢字」である「金」を発表されました。「金」は4回目だそうです。オリンピック・パラリンピックが開催された年は、どうしてもその傾向があるようです。そこで、去年を思い起こすと「密」でした。

右の一覧にもあるように、去年は大半がコロナの影響からマイナスイメージの文字が選ばれていましたが、同じようにコロナの影響があったものの、それに打ち勝つためかプラス思考が働いたのかもしれません。

「金」ではなく、新たな文字にも期待したのですが「密」よりはすいぶん気持ちが違います。まだまだコロナは落ち着いたとは言えず、新たにオミクロン株が年明けから急速に拡大するのではないか

今年	去年
1位・・「金」	「密」
2位・・「輪」	「禍」
3位・・「樂」	「病」
4位・・「変」	「新」
5位・・「新」	「変」
6位・・「翔」	「家」
7位・・「希」	「滅」
8位・・「耐」	「菌」
9位・・「家」	「鬼」
10位・・「病」	「疫」

かとも言われており、油断はできません。当初、インド株などの表現をしていましたが、地名や人名を使用することで、汚名を着せることや差別につながることを避け、コミュニケーションしやすくするために、WHOは5月31日付で、4種ある新型コロナウイルスの懸念される変異株について、新たにギリシャ文字を使った呼び名をつけたことにより「オミクロン」いう言葉を耳にするようになりました。ギリシャ文字の一覧を調べてみましたが、これ以上新しい文字を使用することがないことを願います。

「ホタル飛び交う小栗栖池」を目指して・・・

今年の5月からリニューアルした小栗栖池ですが、桜やモミジの落葉も終わり、メダカもカエルもすっかり冬眠状態で寂しい状況です。そこで来年に向けた新たなプロジェクトを考えました。

「ホタルが飛び交う小栗栖池への改造」です。出来上がった当初の底は平坦でした。さらにメダカを飼うには少し広すぎるそうです。そこでまず金魚も共存できる環境を整えるため、池の中の深さを変えるために岩で壁を造り、4段階の違う深さを設定しました。そのうちの1つは菖蒲を直植えできるスペース（下の写真左端）を確保しました。また、上の右の写真の右奥に土のスロープを設置し、地上の柔らかい土のスペースと繋げて「ホタルの幼虫」が移動できる環境を整えました。まだまだ計画段階ですから夢物語かもしれません。しかし、メダカやカエルを見て喜んでいた生徒の表情から想像するに、ホタルが飛び交っているのを見たときの喜ぶ姿が待ち遠しいです。できることなら来年の「小栗栖中学校



＜当面の予定＞

1月 6日（木）3学期始業式

1月 18日（火）3年定期考査（20日まで）

1月 25日（火）1・2年学習確認プログラム（26日まで）

が選ぶ
今年の
漢字」
は『蛍』
となることを期待しています。